

【目標】 圃地化率：80%以上 収量：200kg/10a 品質：1～3等比率と大粒比率の向上 「とやまGAP」の実施及び生産記録簿記帳100%

月別	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月
旬別			下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	

播種 出芽・苗立 生育期 開花期 着莢始め 莢伸長期 子実肥大期 黄葉期 落葉・成熟期

主な作業

- 基幹排水 (H2O)
- 施肥・整地 (播種前)
- 除草剤散布 (播種前)
- 培土 (1回目：播種20～25日後、2回目：播種30～35日後)
- 防除 (ウコンノメイガ)
- 基本防除 (1回目)
- 基本防除 (2回目)
- 畦間かん水
- 雑草の抜き取り
- 収穫
- 次年度作付圃場の準備

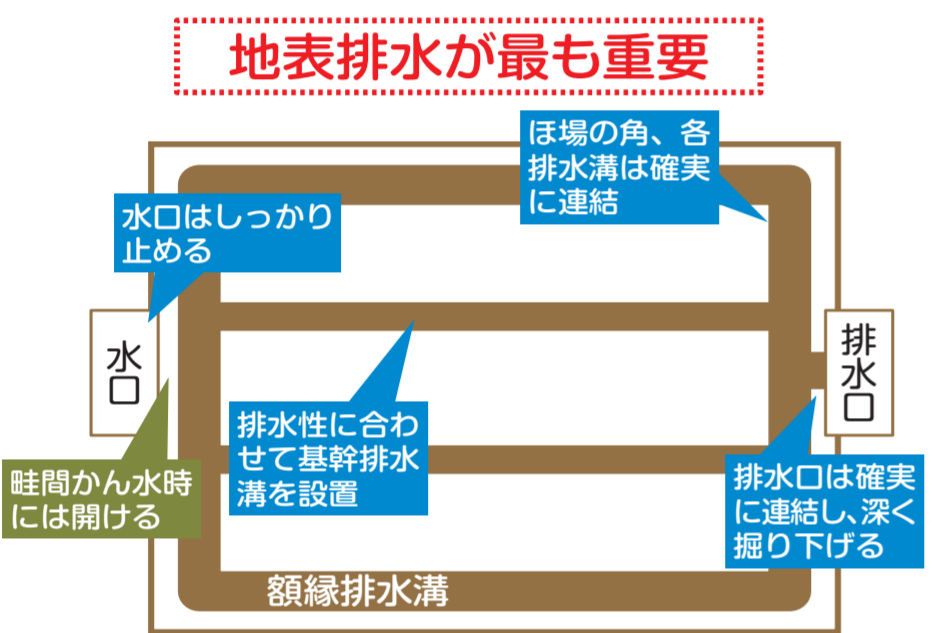
栽培のポイント

- 排水対策を徹底
- 石灰質資材や基肥の適量施用
- 種子消毒の実施
- 適正な播種作業で苗立本数を確保
- 雑草防除 (除草剤散布)
- 晴れ間を逃さず2回培土の実施
- 開花期～9月上旬は早めの畦間かん水
- 病害虫防除の徹底
- 圃場のほとんどの莢が褐色になった頃を目安に刈取り開始

英先熟が発生した生産者は★の対策を徹底しましょう!

畦間かん水：開花期以降晴天が続いたら実施

① 早期排水対策



排水対策の効果

- ・ 碎土率が上がり発芽・苗立ちが良くなる
- ・ 除草剤の効果が向上
- ・ 根量が増え、根粒菌も増える
- ・ 病害 (茎疫病、黒根腐病) の発生抑制

② 土づくりと施肥

★地力の高いほ場では過剰な施肥を避ける。

- 大豆栽培に適するpH6.0～6.5を目標に必ず石灰質資材を施用する。
- 地力の低下を補うため、発酵鶏ふんを施用する。

10a当たり施肥量

資材名等	施肥量
貝化石 (粒)	150～200kg
発酵ケイフン	100～200kg
BB基肥084 (N:P:K = 10:18:24)	20kg
普通田	30kg
砂壤土、低地力田	30kg
麦跡	上記 + 硫安10kg

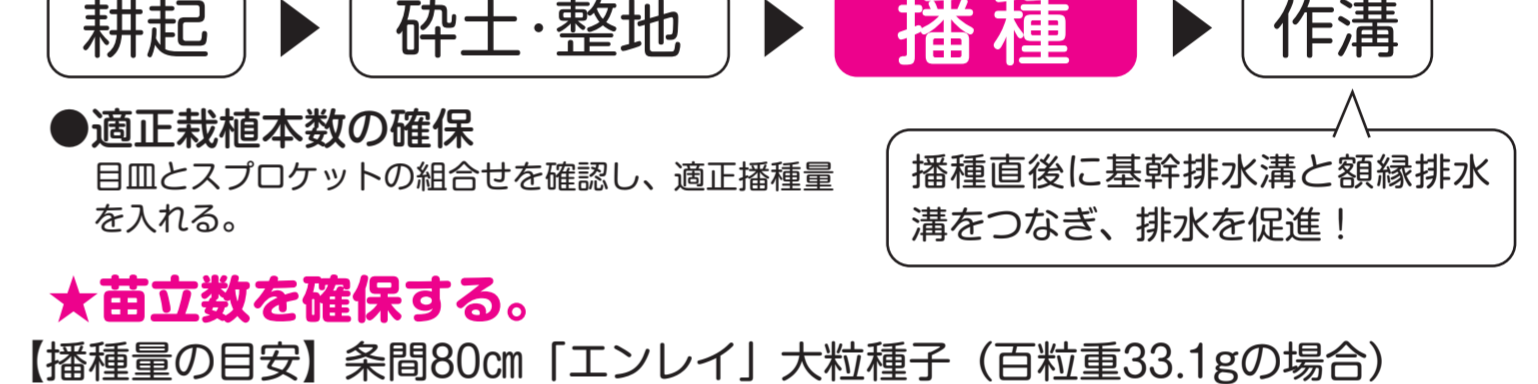
③ 種子消毒 (病害虫防除の徹底)

対象病害虫	使用薬剤	処理方法
フタスジヒメハムシ アブラムシ類 タネバエ ネクリムシ類 茎疫病 黒根腐病 紫斑病	クルーザーMAXX	塗沫処理 乾燥種子 1kg当たり 原液8mL

④ 適正な播種作業で、苗立本数を確保

★極端に早い播種を避ける。

- 一連の作業は圃場が乾いた状態で、好天日に一気に行う。
- ※作業手順 (施肥同時播種の場合)



目皿	播種時期	播種量目安 (kg/10a)	目標栽植本数 (本/10a)	スプロケット	
				目皿側	車輪側
B-2	5月6半旬～6月上旬	5.1～5.9	14,000～16,000	10～11	13
	6月中旬～(麦跡等)	5.9～6.6	16,000～18,000	9～10	14
B-22	6月上旬	5.1～5.9	14,000～16,000	14	9～10
	6月中旬	5.9～6.6	16,000～18,000	13	10

※B-22使用の場合は、圃場条件により播種量が増加します。 ※播種精度95%苗立数90%の場合

⑤ 雑草防除 (除草剤散布)

農業使用基準を守りましょう。

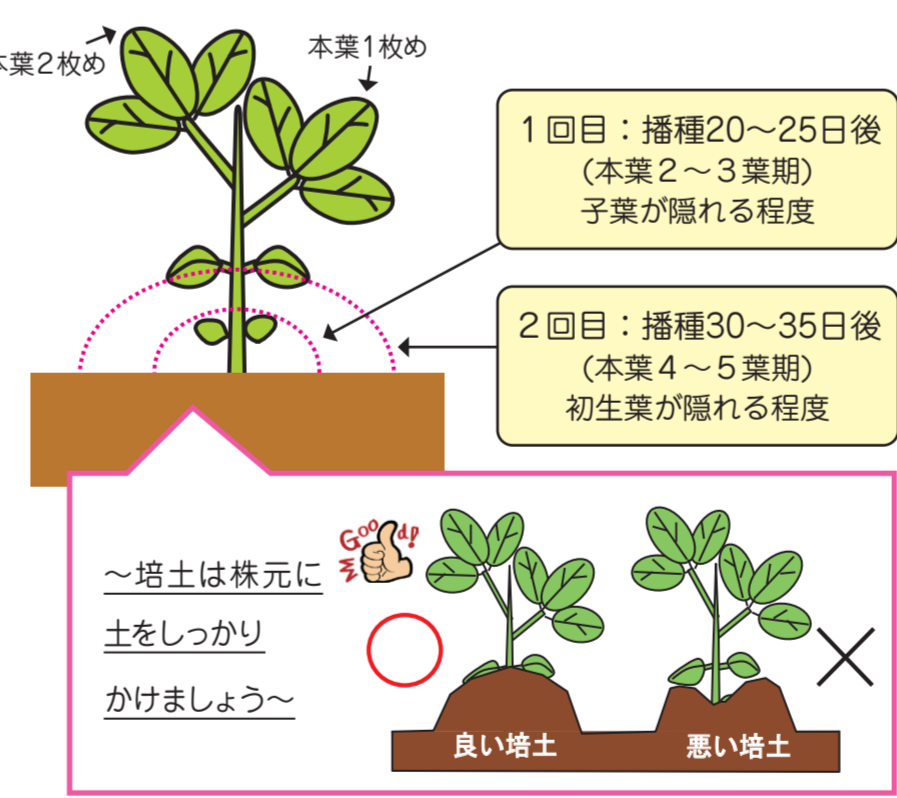
散布時期	対象雑草	薬剤名	10a当たり散布量
播種後出芽前 (雑草発生前)	一年生雑草	サターンバアロ粒剤	4～6kg
		サターンバアロ乳剤	600～1,000mL (水70～100Lで希釈)
	一年生雑草 (ツククサ科、カヤツリグサ科、キク科、アブラナ科を除く)	トレファノサイド粒剤2.5	4～6kg
		トレファノサイド乳剤	200～300mL (水100Lで希釈)
一年生雑草	ラクサー乳剤	400～800mL (水100Lで希釈)	
	プロールプラス乳剤	400～600mL (水70～150Lで希釈)	
雑草生育期 (イネ科雑草の3～10葉期) (収穫30日前まで)	一年生イネ科雑草 (スズメノカタビラを除く)	ポルトフロアブル	200～300mL (水100Lで希釈)
大豆2葉期～開花前 (収穫45日前まで)	一年生雑草 (イネ科を除く)	大豆バサグラン液剤	100～150mL (水100Lで希釈)
本葉3葉期以降 雑草生育期 (草丈15cm以下) 雑草茎葉葉土壌散布 (畦間・株間処理) (収穫30日前まで)	一年生雑草	ロロックス	100～200g (水70～150Lで希釈)
大豆5葉期以降雑草生育期 (畦間・株間処理) (収穫28日前まで)	一年生雑草	バスタ液剤	300～500mL (水100～150Lで希釈)
雑草生育期 (畦間処理) (収穫28日前まで)	一年生雑草	ザクサ液剤	300～500mL (水100～150Lで希釈)

※ロロックス、バスタ液剤、ザクサ液剤は、大豆にかからないように注意して下さい。

⑥ 的確な培土

●晴れ間を逃さず確実に2回の培土を行い、根域を拡大し、湿害を回避する。

●培土後は溝の手直しを行い、排水口へ連結する。



⑦ 畦間かん水 (開花期～9月上旬)

★早めの畦間かん水により干ばつを回避する。

- 開花期から9月上旬、3日間以上晴天が続いた場合、土壌の乾き具合に応じて適時かん水する。
- 圃場全体に水が行き届いたら水口を止め、速やかに排水する。



⑨ 収穫作業

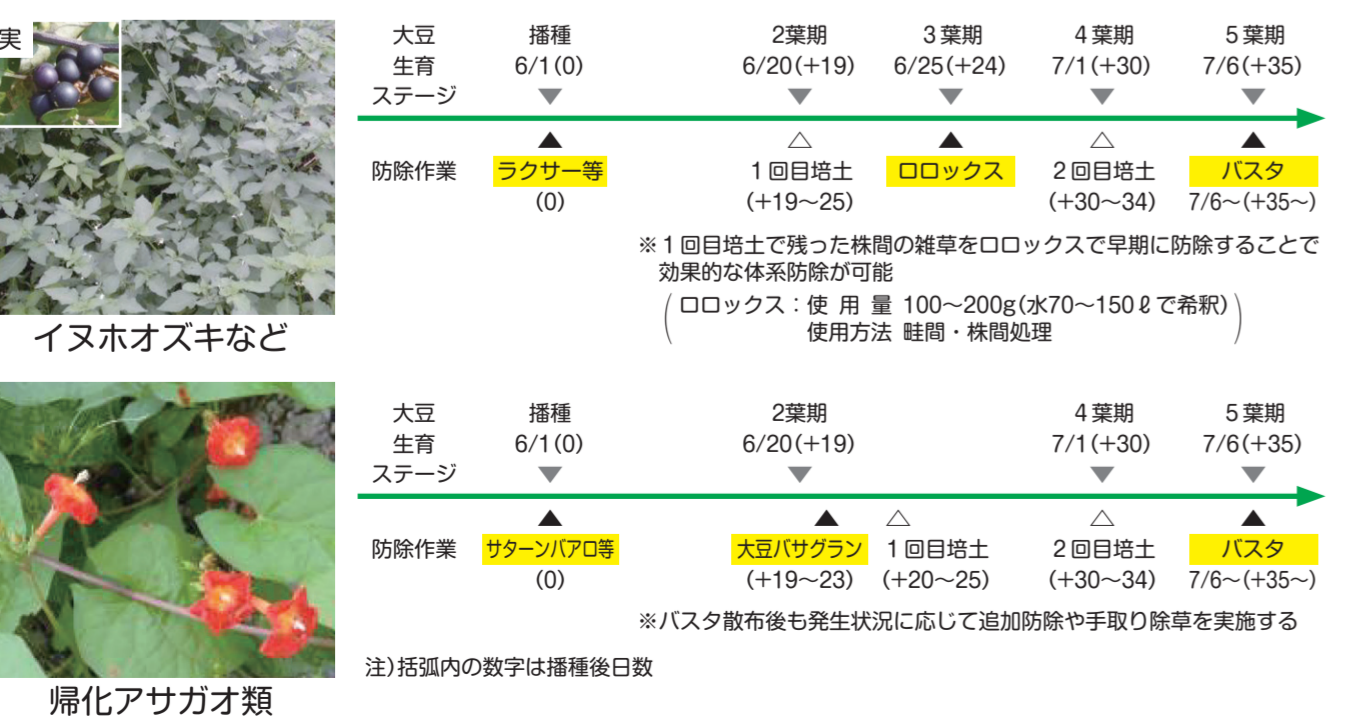
圃場のほとんどの莢が褐色になっただ頃を目安に収穫開始

英色： 緑 → 黄 → 褐色

●汚損粒は絶対に出さない。

- 青立ち株や大きな雑草は事前に抜き取っておく。
- 露がなくなってから刈取る (午前10時～午後4時まで)。
- 刈取り高さは地際から10cm以上とし、土を掻き込まない。

帰化雑草の防除体系



⑧ 病害虫防除

農業使用基準を守りましょう。

★有効薬剤を適期に適正量を確実に散布する。

防除時期	対象病害虫	薬剤名	10a当たり散布量
基本防除	8月上旬	紫斑病、茎疫病	Zボルドー粉剤DL 3kg
		カメムシ類	スミチオン粉剤3DL 4kg
基本防除	8月下旬	紫斑病	トライトレボン粉剤DL 3～4kg
		カメムシ類	アミスタートレボンSE 150mL (水150Lで希釈)
基本防除	8月上旬	紫斑病	ポルトフロアブル 150mL (水150Lで希釈)
		カメムシ類	ダントツアブル 60mL (水150Lで希釈)
基本防除	8月下旬	紫斑病	アミスタートレボンSE 150mL (水150Lで希釈)
		カメムシ類	ダントツアブルDL 4kg
随時防除	7月下旬～8月上旬	ウコンノメイガ	プレバソフロアブル5 ¹⁾ 38mL (水150Lで希釈)
	8月中旬～9月中旬	ハスモンヨトウ	トレボン粉剤DL 4kg トレボン乳剤 150mL (水150Lで希釈)
	9月上旬～9月中旬	カメムシ類	ダントツアブルDL 4kg

1) プレバソフロアブル5を使用される場合は展着剤を加用して下さい。

※安全安心な大豆を生産・販売するために、『生産記録簿』は全て記入して、各営農経済センターへ提出して下さい。